Peace Now! Hiroshima2019開催報告

Peace Now! Hiroshima2019 運営体制

実行委員長　渡邊聡（連合会学生委員会）
企画局長　田中璃沙（梅光学院大）
事務局次長　井上弥咲（高知工科大/中国・四国ブロック事務局）
実行委員　中野葉月、田島響（岡山大）
三浦耀音（広島大）、津森涼花（山口大）
大平鈴音（島根大）

Peace Now! Hiroshima2019 獲得目標

①「ヒロシマ」を知り、広島で追体験する

②様々な視点や考え方に触れ、平和な社会を考える

③いま自分にできること、これから自分たちにできることを考え広げる

Peace Now! Hiroshima2019 企画内容

1日目 アイスブレイク/資料館見学/碑めぐり/式典に向けて
2日目 平和記念式典参加/ピースインタビュー/フィールドワーク
3日目 被爆者講話/フィールドワーク/3地域共通企画
4日目 3地域共通企画/未来につなげる　平和の想い

当日の様子

開会式・アイスブレイク

開会式では「Peace Now!とは？」「Hiroshimaではどんなことを学ぶのか」について確認しました。

アイスブレイクでは班内での自己紹介やお互いに質問をして、4日間ともに学び合う班のメンバーを知る時間でした。

資料館見学&碑めぐり

あの日、広島で起こったことを知り、これから平和について考えていくために広島の平和記念資料館の見学、平和記念公園周辺の碑を巡りました。

その後の感想交流では考えたこと、感じたことを交流しました。

参加者の声（参加者の感想文用紙より）

弁当箱が最も印象に残りました。
弁当箱は特別なものではなく、現代の私達も日常的に使ったりするもの。
だからこそ、当時の広島の人々の日常的な暮らしが一瞬にして変わってしまったのだということが印象づけられました。

爆風の絵が一番印象に残りました。理由は、当時の被爆者の本心というか内面的なところが表れていたから。それは恐怖だったり"絶望"だった。今を生きる自分達には味わうことのない感情を当時の人々は感じていたなんて、とても残酷だなと思った。
「2度と同じことを起こさないで!!」と伝えているような気がした。

被害にあったのは日本人だけではなく、朝鮮人やアメリカ人など様々な国の方もまきこまれて亡くなってしまった。また、身元がわからない方も多くおられ、その人の為にもお墓が用意されるなど、亡くなった方への「最大限の弔い」という思いやりが各所で見られたと思います。（韓国人原爆犠牲者慰霊碑，原爆供養塔）

平和記念式典参列

　平和記念式典はなぜ開催されているのか、どんなことをする場なのかということを確認し、「どんな気持ちで参加するか」について考えました。
　式典当日はあいにくの雨でしたが、実際に参列するからこその雰囲気を感じることができました。
　ワークを通して、式典に参加する前の自分と実際に参加した後の自分にどんな変化があったかについても考えました。

参加者の声（参加者の感想文用紙より）

幅広い世代や世界中の人々が平和について考えていることがわかった。
広島市に住む子どもたちは、自分にできる平和のためのことを常に考えているということがわかり自分も自分にできることはないだろうかと考えようと思った。日頃のあたりまえの日常が幸せなのだと感じた。

ただの傍観者ではなく、平和を願う一市民としての意識がしっかりともてるようになった。

ピースインタビュー

　参加者が2人1組のペアになり、どんな人に質問するか、どんなことを聞くかを考え、平和記念公園にいる一般の方に平和についてのインタビューを行いました。多くの人がそれぞれの視点で「平和」について考えていることがわかりました

参加者の声（参加者の感想文用紙より）

東京から来た小学生に「広島に来て率直に思うことは何？」と質問すると、「原爆の被害に遭った建物が残されているのを見て、原爆は忘れてはならないもので、今もこれからも復興させていこうという思いを感じた」と返事が返ってきたことが印象的。自分より下の世代の子でも深く原爆や平和について考えているのだと実感。

被爆者講話

広島被団協の畠山さんに来ていただき、原爆投下時の広島がどういった状況だったのか、その後の広島はどのように復興してきたのかということを講話いただきました。
ピースインタビューや講話を終えてのワークを通し、今の平和について考えました。

参加者の声（参加者の感想文用紙より）

日本人は原爆について論じることを無意識にタブー視していたり、日本が戦時中におかした誤ち（加害者としての日本）から目を反らしたりしてしまいがちで、だからこそ被爆者の方がおっしゃっていたように、戦争に関する議論をするのをためらうのではないか。現代の中東・ウクライナなどでの戦争や平和について論じる上で、まず日本と戦争について調べることから始めていきたいと思う。

フィールドワーク

5つのテーマでフィールドワークを実施し、自分たちの足で広島の街を巡り、現代に繋がる平和について考えました。普段の生活の中では見えない部分に目を向ける機会になりました。

参加者の声（参加者の感想文用紙より）

フィールドワークを通じて、被爆したのは人間だけではなくて木もそうやし、動物も、電車もなんだと感じることが広島城から感じた。

フィールドワークで参加者が感じたこと

参加者の感想をまとめた資料です！

2019年度のPeace Now!Hiroshimaで**参加者が巡った場所**とそこを訪問した**参加者が何を感じ、考えたのか**ということが見れるようになっています！

- 祈念碑
- 広島城
- 島病院
- 平和塔
- 基町アパート
- 袋町小学校
- 本川小学校
- 港湾事務所
- 広大付属講堂
- 広島大学
- 旧日本銀行
- 陸軍糧秣支廠
- 市役所展示室
- 宇品波止場公園
- 広島赤十字・原爆病院メモリアルパーク

3地域共通企画

3地域共通企画では今まで学んできたことを他の人に伝えるために深堀りと伝えるツールとして新聞を班内で作成しました。
どうすれば自分が感じたことを他の人に伝えることが出来るかについて考える機会になりました。

参加者の声（参加者の感想文用紙より）

同じ時間を過ごしても、班員との受け止め方、感じ方、価値観~~の違い~~が違って3人の意見を1つの新聞で伝えることは難しかった。今回作った新聞を、ピースナウを広めたり、今回の学びや気付きを東海で広げていくために活用していきたい。

自分が印象に残ったことを深堀りし、それについて自分の意見や目的を書くことができた。

未来につなげる平和の想い

Peace Now!Hiroshima最後の時間では平和を広げていくために個人でできることや組織としてできることを考えました。地域（大学）別でどんなことができるかということを具体化しました。
また、「なぜ大学生協が平和を大切にしてきたか」、「ヒバクシャ国際署名とは」ということも考え合いました。

参加者の声（参加者の感想文用紙より）

学んだことを周りに伝える重要性、仲間と一緒に考え伝えていく重要性を学んだ。これをきっかけに自大学あるいは東海の大学で何ができるのか考えていきたい

身近な人を大切に、そして話をたくさんしていきたい。自分が考えている平和を話す時間を大切にしたい。

Peace Now!Hiroshima 開催報告に関するお問い合わせは
連合会学生委員会　渡邊（Watanabe.Satoru@univ.coop）まで